



発行所 長岡鉄工業青年研究会

発行責任者 山崎 宣明

編集責任者 鳥越 太郎

編集者

小林 史幸・阿部 修平・大塚 淳史

門倉 侑大・川上 拓也・田中 祐樹

中津山隆博・皆川 政男

事務局

新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号

長岡商工会議所ビル5F

長岡鉄工業青年研究会

TEL 0258-36-6982

印刷所

(株)北越時報社 長岡市住吉2丁目5番13号

新年度を迎えて

長岡鉄工業青年研究会
平成二十九年度会長 市川 光

平成二十九年度長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くこととなりました株式会社オオイの市川光です。一年間、宜しくお願ひ申し上げます。昨年度、発足四十五周年をむかえた歴史と伝統ある当会の会長職を務めることになり身の引き締まる思いであります。当会で今まで得られた知識と経験を活かして精一杯職務を努め、微力ではありますが会の発展に貢献できればと思っております。

さて、昨年世界ではイギリスのEU離脱宣言、アメリカのトランプ大統領誕生という大きなニュースがあり、グローバル化が進む世界経済と逆行するように政治の世界では保守的な動きを見せています。すでに計画されていた生産拠点について見直しの動きが出るなど我が国にも少なからず影響が出始めています。長岡地域の経済状況については、全般的に慎重な見方が続き、設備投資もほぼ横ばいの状況にあります。雇用情勢は持ち直しの動きがみられるものの、製造業においては人材の確保が難しく、これからさらに深刻化する労働人口減少により状況は厳しさを増していく見通しです。このような状況の中でも企業は成長していかなければなりません。その為には次世代の企業経営を担う当会の会員の成長が不可欠です。各事業を通して企業経営に必要な知識を学び、成長するためのヒントをつか

むきつけになればと考えております。そして相互扶助の精神に基づき会員同士協力して事業成功に向け取り組んでまいります。

一、人材育成事業

「共に学び、共に創る」

平成二十九年度は「共に学び、共に創る」というテーマを掲げ活動してまいります。会員同士が協力し合い、アイデアを出しあいながら事業成功という目標に向かって取り組んでいきます。互いに刺激しあい切磋琢磨しながら、新たな取り組みをすることによって得られる経験から『学び』、そして新たなものを『創る』ことを目標にし、厳しい状況の中でも常に成長・発展できる力を身につけます。

また、地元長岡を始め周辺地域の他団体との交流事業では、先方が当会に対して求めることと当会が先方に求めることを共に汲み取り、双方にとって実のある事業にしていくよう努めてまいります。

二、渉外事業

本年度も引き続き当研究会を外部へ向けて積極的にアピールします。例年、長岡市の大学との交流を継続しておりますが、本年度は新たな試みとして長岡大学との交流を行います。大学側より企業経営に関する知識を学ぶ一方で、当会との交流を通じて長岡大学と製造業との新たな接点ができればと考えております。また、長年交流がある長岡市内の養護施設にて出張ものづくり体験教室を行います。ものづくりの楽しさを伝え、一人でも多くの子供達にもものづくりに興味を持ってもらいたいと考えており

ます。

三、地域貢献、交流事業

地域貢献事業として、OB会員の皆様や、趣旨に御賛同頂いた皆様、会員企業の多大なる御協力のもとに行われる「屑鉄集め」を継続実施致します。当事業の際には、御協力を宜しくお願い申し上げます。八月一日には長岡まつり前夜祭神輿渡御に諸先輩方より受け継ぐ伝統のオリジナル神輿と纏で参加し、周辺地域の皆様に鉄工青研をアピール致します。交流事業と致しましては、他団体交流事業の継続として、柏崎、小千谷の若手団体との交流会を行い、情報交換や技術の向上へ努め、親睦を深められるような企画をしたいと考えております。

以上の事業を柱として、一年間当研究会の運営を行ってまいります。様々な場面でOB会員の皆様や、関係各機関の皆様からご指導、ご協力いただくことになるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。これから数年後には会員の大幅な減少が見込まれますが、各交流事業、渉外事業を通じて会の活動をアピールし、新規会員獲得のきっかけとなるよう努めてまいります。また、現役会員の皆様には各事業へ積極的に参加してもらい、自己の成長や会員同士の親睦を深めてもらえればと考えております。

一年間宜しくお願ひ申し上げます。



一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十八年度会長 山崎 宣明

平成二十八年度会長を務めさせて頂きました長岡スプリング株式会社社長の山崎です。

長岡鉄工業青年研

究会は発足四十五周年という節目の年であり、諸先輩方が築きあげてきた歴史と伝統のある当会を、次世代へと繋げ、更なる発展を目指す思いで一年間務めてまいりました。「挑戦」という活動方針を掲げスタートし、各委員会から方針に沿った素晴らしい事業を行っていただき、心より感謝申し上げます。本年度は年間事業計画にはない外部機関や他団体からの依頼があり、新たな四つの事業を行いました。スケジュールのかなり厳しい状況でありましたが、依頼を断るのとは簡単ですが、いかにして依頼に応えられるかを考え、私自身が「挑戦」し、また会員の皆様のご理解、ご協力のお陰でやり遂げることができ、四十五周年に相応しい一年であったと感じております。

平成二十九年度は市川会長の下、更に一致団結して青研を盛り立てて頂きたいと思えます。私も微力ながら、会員の皆さんと共にサポートをさせて頂きます。

最後になりますが、数々のご協力を頂きました関係行政機関、OB会員の皆様、そして一年間支えて頂きました会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 鳥越 太郎

この総務委員長を引き受ける上で、もっとも大切にしたい事は、伝統あるこの長岡鉄工業青年研究会の総務運営にあたり、会長に切迫感・焦燥感を与えない事でした。この総務委員会が事業でスムーズに進行できていないと会長自身が会の運営自体に気を配り、各事業への助言等に支障をきたすと考えたからです。『会長に恥をかかすわけにはいかない。』その思いをもって、委員長の任を拝命した時点で事前準備に取り掛かりました。前総務委員長から引き継いだ資料を最大限活用し、自分なりに準備を行いました。出来上がった内容については、副委員長と打合せを経て、確認を繰り返して精度を高めてきました。そうした準備をしていても事業進行に行き詰まる事や会員の皆さん、来賓・OBの方にご迷惑をおかけした事もありました。またトラブル時に処理対応した経験も、今後様々な場面で活かせると思います。

総務委員の皆さんには、拙い指揮や不明確な指示で混乱させてしまった事もありました。『人を率いる事・人を動かす事』の難しさを知る一方で、事業終了で得られる安堵感と達成感を学ばせてもらい、委員長として貴重な経験をさせて頂きました。

また今年は発足四十五周年という節目の年でしたので、例年の事業の他に記念

交流会「団結会」の設営にも携わる機会を与えて頂きました。前回記念式典の資料を基に新しい事へ挑戦するため一つ一つが手探りでした。しかし数々の出会いに恵まれた事、そして会員の皆さんが様々な場面で協力してくれた事で当日は円滑に運営でき、盛大に行う事ができました。『相互扶助の精神』を幾多の場面で実感し、すべて終えた時の達成感はこの青研活動としての一生の思い出となりました。

その一方で総務の通常業務において、迅速に行う事ができなかった時があり、猛省した事も忘れられない思い出です。入会した頃の頃、ある先輩から『青研で失敗していい、それを糧に会社で活かせ』と教えて頂きました。会社も立場も年齢も違うけど、長岡という地域で活動する鉄工業界の若者達がこの青研活動を通して得られる一味違った経験は会社を持ち帰って活かせるのではないかと思います。最後になりますが、三役・各役員の皆さん、会員の皆さん、本当にありがとうございました。

◆卒業式

平成二十八年四月九日(土)にかも川別館様にて行いました。快晴、大安、そして満開の桜の中、卒業式を厳かに執り行う事が出来ました。今まで青研を支えてくださった五名を現役一同で囲んで、一緒に活動したたくさんの思い出を語り合いました。卒業生と現役とで過ごす楽しい懇親会となり、これからも青研を通じて、さらなる飛躍をお互いに誓う門出として、心に残る式となりました。

御来賓 中越鋳物青年研究会副会長

安藤 啓太 様

御卒業会員 五名

大竹 啓之さん・反町 惣夫さん

永井 宏明さん・野本新太郎さん

橋本 祐一さん

青研会員 四十名 (鳥越 太郎)



◆合同納涼会

平成二十八年八月二十七日(土)、Beer Belly 様にて中越鋳物青年研究会様との合同納涼会が開催されました。会員同士はもちろんの事、中越鋳物青年研究会様とも和気あいあいと談笑されていて楽しい合同納涼会なり、同じ地区で活動を行っている両会の良い親睦の場になりました。参加された皆さんの御協力により、無事会が終えられました事に感謝いたします。

中越鋳物青年研究会 会員 十一名

◆四十五周年記念 交流会・団結会

長岡鉄工業青年研究会会員 三十一名
(門倉 侑大)

平成二十八年十一月十一日(金)、ホテルニューオータニ長岡様にてOB会員六十一名と日頃大変お世話になっております事務局の野中様をお招きし、四十周年時と同じ日に盛大に催す事が出来ました。過去五年間の活動報告の軌跡をスライド上映したり、当会自慢の神輿の展示、またラーメン潤蔵王橋店主・小西様より特製ラーメンを振る舞うイベントを行い、楽しんでいただけたと思います。たくさんOB会員との交流を通して五年先の五十周年に向けて、さらなる御支援と御協力をお願いする機会となりました。

長岡鉄工業青年研究会OB会員

六十一名

御来賓 事務局 野中様
会員 四十三名

(鳥越 太郎・小林 史幸)



◆忘年会

平成二十八年十一月二十六日(土)、酒味の郷いさり火にて行いました。二〇一六年を締めくくる最後の事業でしたが、多数の御参加を頂きまして、大いに盛り上がりました。今年の事業を振り返りながら、会員同士の一層の親睦を図り、来年も団結して飛躍できるのではないかと思っております。

会員 三十四名 (大塚 淳史)

◆臨時総会・合同新年会

平成二十九年二月三日(金)、長岡グランドホテル様にて、臨時総会・合同新年会を行いました。臨時総会では、次年度会長、副会長及び各役員の選出を行い、無事承認されました。

中越鋳物青年研究会様と合同で開催しました新年会では、ご来賓や双方の歴代会長をお迎えして賑やかにしました。

そして一年の飛躍を誓いながら、新年を祝う宴席となりました。

臨時総会

出席 三十八名

委任状による出席 四名

(合計 四十二名)

合同新年会

御来賓 六名

鉄工青研歴代会長 十一名

鉄工青研会員 三十九名

中越鋳物青研歴代会長 二名

中越鋳物青研会員 十一名

(合計 六十九名)

(阿部 修平・中津山隆博)



◆定期総会・卒業式

平成二十九年四月八日(土)、かも川別館様にて、定期総会・卒業式を行う予定です。

研修委員会

委員長 永井 邦幸

今年度の研修委員会は、山崎会長の『挑戦』という年度方針を踏まえ、研修旅行と四十五周年記念講演会を行いました。二つの事業を通じて、企業にとって『挑戦』がいかに大事かという事と、我々一人一人の青年にとって挑戦し続けることがいかに大事かという二つの事を学べました。

◆研修旅行

今回は、六月二十三日(木)から二十四日(金)にかけて、機械要素技術展の視察と、(株)浜野製作所様と(株)リバネス様の見学を行いました。初日の機械要素技術展では、多くの中小企業がどのように自社を外部へ発信し、現状の打開『挑戦』を試みているのかの知見を得ると共に、我々中小企業こそが日本の製造業を支えているのだという認識を深める事ができました。二日目の(株)浜野製作所様と(株)リバネス様では、プロモーションと研究開発をベースにしたビジネスモデルを体現されている先進例を見学する事ができました。(株)浜野製作所様は、我々と同じ様な請負型製造業でありながら、社長自ら率先したプロモーション活動とメディアへの露出を行うと共に、地域と連携した事業や、共同研究を積極的に誘致する事で、様々な業界、機関からの受注に繋がっていらっしゃる企業です。また、(株)リバネス様は、社員が全て大学卒で、その知性と研究開発力を武器に、二百以上のプロジェクトを利益率五十%以上にて運営する知識製

造業です。これらの二つの企業を見学し、我々においても既存の技術・ノウハウ・境遇をベースとした上で、先端技術、製品、人材といった様々な研究開発を行い、それらを有効に発信していく事の必要性、すなわち革新への『挑戦』の必要性を強く感じる事ができました。

当研修旅行に際しまして、ご参加された皆様はもとより、参加のお声掛けにご尽力頂いた会長はじめ役員の皆様、そして、木金という

平日開催にも関わらず貴重な人財を送り出して頂きました所屬企業の皆様、関係各所の皆様の多大なるご協力・ご尽力を頂いて、当事業を無事に終える事ができたと思っております。心より感謝申し上げます。

研修旅行は、人生においても鉄工の同志と過ごす非常に濃密かつ有意義な時間になり得ますので万障繰り合わせて参加する価値があります。以後も是非ともご参加頂きたいと存じます。



参加者 会員二十一名

(永井 邦幸)

◆ 四十五周年記念講演会

本年度の講演会は四十五周年記念講演会として、平成二十八年十一月十一日(金)に総務委員会主管の団結会と合同にて開催致しました。講師には、オリンピックに三度の出場を成された渡邊一成様をお迎え致しました。

渡邊様は初めての講演会という事で緊張の面持ちが窺えましたが、実直なお人柄の表れた熱意ある講演会となりました。講演の中のお言葉の「努力とは小さな挑戦の積み重ねであり、継続は小さな努力の積み重ねである。」という一文からも、渡邊様自信が未だ挑戦の最中にいらっしやるという事をありと感じると共に、我々青年にとっても、日々の精進と努力こそが挑戦し続けることそのものであり、それが大きな挑戦に繋がっていくのだという気付きを得る事ができました。当講演会に際しまして、皆様の御参加と多大なる御助力を賜りました事を心より感謝申し上げます。また、団結会同日開催ということで総務委員会の皆様には事前準備から、当日に至るまで大変お世話になりました。この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

参加者 現役会員三十八名・卒業会員

三十名・計六十八名

(永井 邦幸)



実行委員会

委員長 市川 光

今年度の活動テーマである『挑戦』に沿って一年間事業を行ってまいりました。今まで実行委員の経験がなく不安でしたので、私にとって委員長を務めること自体が挑戦でした。実際に始まってみると、ゴルフ場への予約や組み合わせの作成、屑鉄集めの班編成など初めての事ばかりで苦労しました。

卒業生追い出しゴルフコンペは、池田渉外委員長尽力によりヨネックスカントリークラブにて開催することが出来ました。女子プロのトーナメントも開催される難関コースに参加者は大変苦戦していたようですが、好天の中、卒業生との最後の事業を楽しむことが出来ました。昨年度に引き続きOB会員との交流ゴルフコンペを七月に開催しました。四十五周年記念のコンペということもあり、

大変多くのOB会員の方々から参加して頂き、現役会員と合計で四十九名となりました。ゴルフを通じてOB会員の皆様との親睦がより一層に深まった一日となりました。反省点としては、OB会員への案内が遅かったことです。ですので、次年度はこの反省を活かし、準備を早めていきたいと思っております。

三十年以上の歴史のある地域貢献事業、屑鉄集めでは回収トラックの減少もあり、午前から回収を実施しました。また、回収遅延の対策として、遠方の回収先は事前に横山銅鉄様の近辺の会員企業に仮置きをし、余裕を持たせました。途中、回収漏れのトラブルもありましたが、参加



◆卒業生追い出し ゴルフコンペ

平成二十八年四月二十三日(土)、ヨネックススカントリークラブにて卒業生追い出しゴルフコンペを実施致しました。当日は晴天にも恵まれ、卒業生と現役会員の皆様から多くのご参加を頂きました。そして、ゴルフを通して卒業生の皆様と最

した皆様のご協力により時間内に終えることが出来ました。ありがとうございます。そして、この浄財で十二月に柿が丘学園様、もみの木工房様、双葉寮様の三施設を訪問し寄付贈呈式を行いました。初めて参加しましたが、改めてこの事業を行う意義を確認することができ、今後も継続していくべきであると感じました。最後に一年間事業をやり遂げることができたのも山崎会長をはじめ両副会長、小笠原副委員長、実行委員の皆様のご協力のおかげです。一年間、本当にありがとうございました。

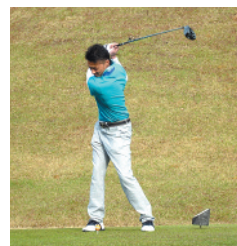
◆四十五周年記念 ゴルフコンペ

平成二十八年七月九日(土)、長岡カントリ倶楽部にて四十五周年記念ゴルフコ



ンペを開催致しました。四十五周年という節目を迎えた中での恒例のゴルフコンペでしたが、例年以上の多くのOB会員

後の事業として楽しい時間を過ごすことができたのではないかと思います。今回の事業の成功はひとえに皆様のご協力の賜物と感謝しております。誠にありがとうございました。



参加者 ゴルフ 二十四名
表彰式 三十一名
優勝 山本 友紀 様
(七里 大樹・今枝 龍哉)

◆屑鉄集め

今年度も九月二日(クズの日)に合わせて青研参加者二十九名、屑鉄提供企業四十一社にて行いました。今年は二十九名の会員にトラック十台と去年以上のご



様のご出席を賜り誠に嬉しく深く感謝申し上げます。当日は生憎の空模様となりましたが、皆様楽しくプレーされたことと思います。表彰式におきましてもOB会員様より懐かしいお話や熱いお話を頂き、親睦をより一層深めるだけに留まらず後の団結会に向けて大変有意義な時間を過ごせた事と思います。誠にありがとうございました。

参加者 ゴルフ 四十九名
表彰式 五十二名
優勝 大井 尚敏 様
(富川 和則・小笠原昭範・田原 裕巳)

◆福祉・児童養護施設 寄付贈呈式

参加をいただき、事故・怪我等もなく作業を完了することができました。これもひとえに屑鉄集めに対するご理解と、ご協力を賜った協力企業の皆様及び回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。誠にありがとうございました。



平成二十八年十二月十六日(金)、例年同様に屑鉄集めにて皆様からご提供いただいた浄財にて三施設に寄付を行いました。柿が丘学園では恒例となりましたソリ遊びや贈呈品の遊具(マット)で子供たちと一緒に遊び、お札に手作りの色紙と首飾りをもらいました。もみの木工房では贈呈品の作業椅子とデジタルはかりが実際にどのように使用されるか説明して頂きました。双葉寮では一人でも多くの子供たちに会える様に訪問時間を調整しました。林寮長より子供たちの現状、施設の行事や取り組みについて説明して頂いた後、ホールで学習椅子や二段ベッド等を贈呈しました。

(市川 光)

(佐々木健司・小沼 啓・菲澤 誠吾)

まつり委員会

委員長 松田 勇介

本年度は創立四十五周年という記念すべき一年でした。鉄工青研の会章と第十四代から始まった纏の模様を背に入れた正副会長の法被製作を始め、大うちわの製作や馬用台車の製作を行いました。

四十五周年の記念渡御ということもあり、多くのご卒業生や一般参加者の方のご協力により、ご卒業生二十八名、一般参加者八十三名、総勢一五三名という過去に見ても最多人数で渡御を行うことが出来ました。年々減っていく会員数で、神輿渡御参加も危ぶまれる中、今後の活動のためにも、次年度以降も引き続き皆様のご参加ご協力の程、よろしくお願い致します。

また、卒業生および関係各所の皆様より、いまだ先行き不透明な経済状況にも関わらず例年と変わらぬご支援いただきましたこと、また神輿渡御当日にお心遣い・お声掛け頂きましたこと、重ねて御礼申し上げます。

会長をはじめとする三役の皆様や各委員会の参加者、卒業生・一般参加者の皆様のおかげで大きなトラブルもなく無事終了できました。今後も鉄工青研の神輿活動にご協力、ご尽力賜りますようお願い申し上げます。



渉外委員会

委員長 池田 一雄

今年度の渉外委員会は、会員およびその企業がこれからの時代に向け、より活発に行動できることを目標に、事業を実施して参りました。まずは四月に、会章（ピンバッジ）の製作を行いました。青研として、他の団体と交流をする機会や、外部での活動機会が増えてきたことで、会員の自覚と会の連帯を高める狙いで製作いたしました。次に、長岡技術科学大学より芳司先生ならびに蓮見研究員をお招きし、「リスクアセスメント」をテーマに、研究室との交流事業を行いました。こちらの事業には、青研会員企業の社員の方もご参加いただき、人と人の接点のみならず企業と企業の交流の場、また社員教育の場として、大いに盛り上がったと感じております。さらに、他団体交流事業として、長岡蒼柴ライオンズクラブ様との、交流事業をおこないました。長岡蒼柴ライオンズクラブ様とは、長岡駅前のモニユメント製作をきっかけに、この長岡という地で長岡を思い活動する団体として、両会の親睦を深めることを目的に、意見交換会および懇親会を企画いたしました。業界・業種、また年齢も幅広い先輩方とのお話しは、私たちにとって良い刺激となりました。また、十一月十一日に行われた団結会において、当委員会では本年度の活動報告と、この四十五周年までの過去五年間のムービー製作を担当いたしました。過去の資料や写真の整理など、かなりの時間を費やしましたが、それとともに青研の歴史をあら

ためて感じられ、身の引き締まる思いでした。その後、一月に長岡市主催の「長岡ものづくりフェア2017」に、体験教室を出展いたしました。当日は予想以上の来場者で、三十分くらいお待ちいただく場面もありましたが、時折垣間見える子供たちの笑顔が、とっても印象的でした。最後になりますが、事業の運営・設営にご協力いただきました関係機関の方々、またご尽力いただきました会員の皆様と、ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

◆四十五周年記念 会章製作

本年度は、長岡鉄工業青年研究会の発足から、四十五年の節目の年となりました。また、渉外委員会と改名(旧ものづくり委員会)してから四年を迎え、他団体との交流や活動も増えて参りました。そこで本年度の事業を開始するにあたり、青研会員としての自覚と連帯を認識できるものとして、会章(ピンバッジ)の製作を行うことにしました。この会章に恥じることの無きよう日々精進し、あくなき探求心を持ち続けていきます。

(吉原 範宴)



◆長岡技術科学大学 交流セミナー

平成二十八年五月二十日(金)、まちなかキャンパス長岡交流ルームにて、第四回目となる安全技術セミナーを行いました。「コミュニケーション力」と「作業現場における気づきの力を養う」をテーマに、長岡技術科学大学大学院技術経営研究科准教授の芳司俊郎様、産学連携研究員の五十嵐広希様より御講演いただきました。鉄工青研初の試みとなる会員企業の従業員の方々にも御参加いただき、リスクアセメントについてグループディスカッションを行いました。



懇親会においても先生方を囲み講演の内容をさらに掘り下げた質問をさせて頂き、また会員企業の従業員の方々との交流も大変盛り上がりしました。最後に、鉄工青研初の試みということで今年度のテーマ「挑戦」に相応しい事業になったと思います。沢山の方々の御参加ありがとうございました。

参加者 セミナー 三十八名

懇親会 三十七名

(井上 航)

◆長岡蒼柴ライオンズクラブ 交流事業

九月二十八日(水) ホテルニューオータニ長岡にて、「長岡蒼柴ライオンズクラブ・長岡鉄工業青年研究会交流事業」を開催しました。



この長岡地域において、私たちと同じくこの地を思い、人を思い活動されておられる先輩方との交流を図ることで、当会の今後の活動に役立ててもらうことを目的に企画しました。両会とも沢山の方々にご参加頂くことが出来ました。

第一部の意見交換会では当会の紹介と活動案内をおこない、長岡蒼柴ライオンズクラブの方からはライオンズに入会されたきっかけや今までの活動をお聞きしました。とても和やかな雰囲気での進み、その雰囲気そのままに次の懇親会に移りました。

第二部の懇親会では、人生の先輩方の豊かな経験や発想に触れ、仕事の面だけでなく今後の活動への参考になる、とても有意義な懇親会となりました。

また当日は、長岡蒼柴ライオンズクラブ

の皆様と共同製作した長岡花火をモチーフとしたモニュメント製作において感謝状贈呈式が行われ、感謝状を頂きました。最後になりますが、本事業の設営・実施にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

参加者

長岡蒼柴ライオンズクラブ

会員 十二名

鉄工青研 会員 十八名

出席者合計 三十名

(古川 琢也)

◆長岡ものづくりフェア 2017 出展

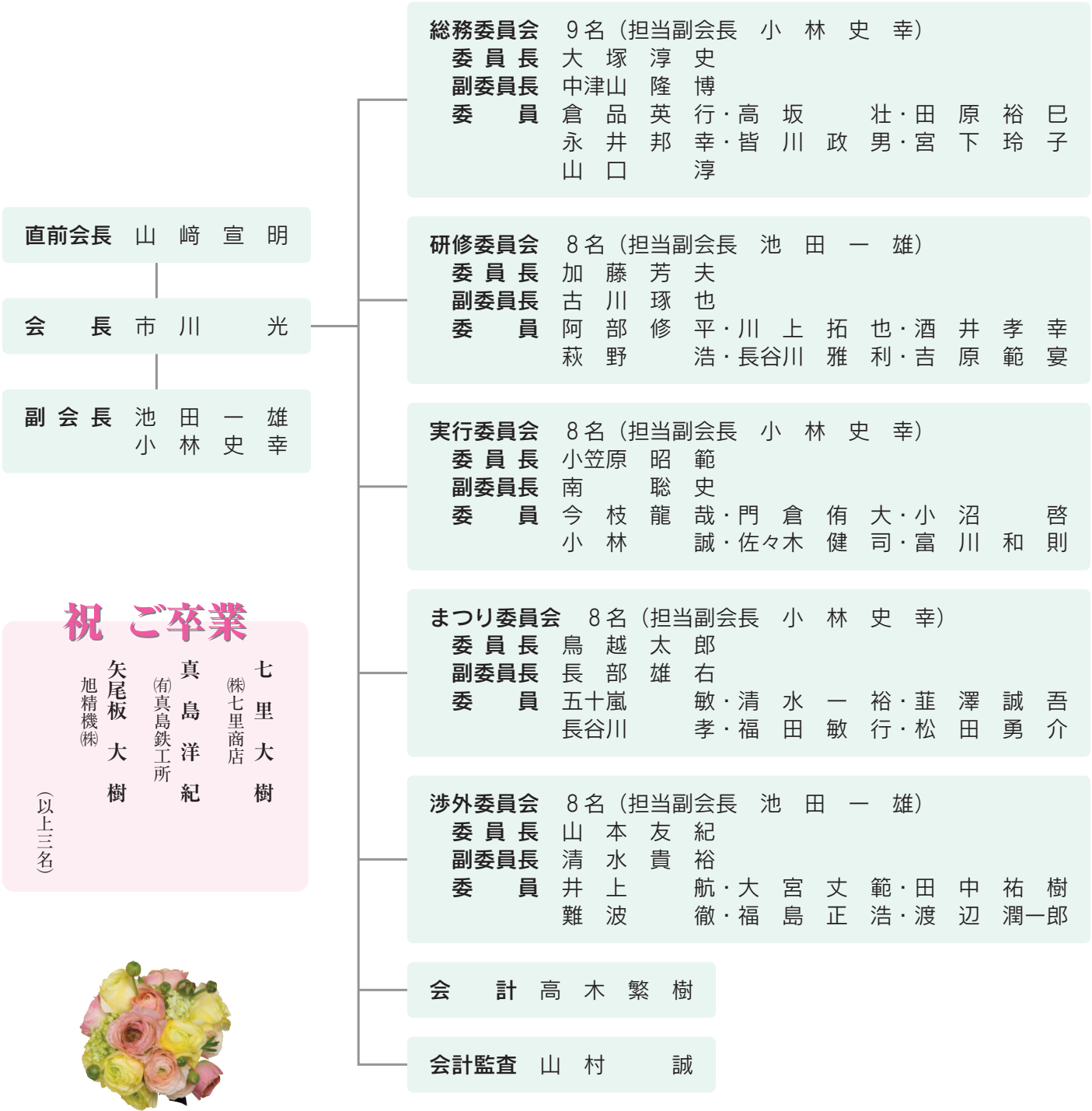
一月二十八日(土)と二十九日(日)の二日間に渡り、アオーレ長岡にて開催されました「長岡ものづくりフェア2017」に出展いたしました。「曲げて作ろう」おもしろペンホルダー」と題しまして、アルミ板を曲げて人型ペンホルダー作りを体験してもらいました。地域交流と、将来の地域産業を担う子どもたちに、ものづくりの楽しさに触れてもらう目的で開催いたしました。子供たちが真剣に作業に集中している様子やペンホルダーが完成した時の笑顔を見ると、ものづくりを通して良き経験や、思い出の一つになったのではないかと感じました。用意していました材料も全てなくなり大盛況で当事業を終えることが出来ました。当日ご来場いただきました皆様と、設営・準備にご協力していただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

来場者 三百九十名

青研参加者 二十六名

(清水 一裕)

平成29年度 長岡鉄工業青年研究会組織図



新入会員の紹介

長谷川 雅利 (株)オートツ 〒九四〇一―一六四 長岡市南陽二―九四九―一五 TEL二二―三三三四 FAX二二―三三四五 昭和六十二年六月十八日生	五十嵐 敏 五十嵐工業(株) 〒九四〇一―〇一六 長岡市宝五―一―二七 TEL二四―七五六七 FAX二四―五一四五 昭和五十八年一月六日生	高坂 壮 (株)長岡金型 〒九四〇一―二四五 長岡市西陵二六七四―三一 TEL四六―六六六〇 FAX四六―六六九四 昭和六十年三月三日生	川上 拓也 (有)川上研磨 〒九四〇一―二〇二一 長岡市宮岡四―九―十五 TEL二七―一七四六 FAX二七―四七三六 昭和五十四年二月二十三日生	田中 祐樹 (株)ト―エー 〒九四〇一―〇〇〇六 長岡市東高見一―四―三 TEL二四―八七六八 FAX二四―六一三四 昭和六十二年七月八日生	平成二十八年 四月以降入会
---	---	--	--	--	---------------